

## 現行計画の総括

### ○はじめに

現行計画期間においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、当初の予定どおりに取り組むことができなかった事業が多く、文化芸術振興への取組の成果について、一概に評価するのは困難である。しかし、その中で取り組んだ各重点施策の状況については次のとおり。

### ○重点施策 1 について

県内の人口減少や高齢化により、地域の伝統的な文化芸術の担い手のさらなる不足が懸念される状況に対し、伝統的な文化芸術が将来にわたって地域社会の中で確実に引き継がれていくよう、公演の実施やワークショップの開催など、伝統的な文化芸術の鑑賞や参加の機会を提供することで、県民の理解・認識を深めることに取り組んでいる。

引き続き、県民のこのような取組を継続していくとともに、県内各地で事業を行い、県全体の伝統的な文化芸術に対する機運を醸成していくことが望まれる。

### ○重点施策 2 について

調和のとれた人格形成を促すための子どもを対象とした取組のほか、人生 100 歳時代等を見据えて高齢者・障がい者などあらゆる人の文化芸術の充実を重点施策の対象に加え、幅広い人々に対して施策を展開することができた。

今後は、豊かな感性や創造力、コミュニケーション能力などをはぐくむとともに、文化芸術に関わる人材育成に取り組む視点や、共生社会の実現や未病改善を文化芸術の面から後押しする視点から、事業を推進していくことが必要である。

### ○重点施策 3 について

新型コロナウイルス感染症の影響により、人々の移動が制限されたことから、文化芸術に関する国際交流も停滞した中で、オンラインの活用など代替的な手段等により取組を継続させてきた姿勢は評価できると考える。

今後は、これまでに構築した三県省道やベトナム等とのネットワークを活用し、文化芸術の国際交流の活性化に向けた再始動に取り組んでいくことが必要である。また、神奈川県には多くの外国籍県民が居住しており、多文化理解の推進のために、より一層の文化交流が望まれる。

### ○重点施策 4 について

東京 2020 大会公式文化プログラムである「東京 2020NIPPON フェスティバル」のうち、東京 2020 組織委員会による主催プログラムに、地方公共団体で唯一参画し、「共生社会の実現に向けて」をテーマに、神奈川県文化芸術の魅力国内外に向け発信したことで、共生社会の理念の浸透に一定の効果があつたと考えられる。

東京 2020 大会の機会を捉え、官民一体となってオール神奈川で進めてきた文化芸術振興の取組をレガシーとして継承し、誰もが文化芸術活動に参加し楽しめるよう文化芸術活動の裾野を広げる取組が望まれる。

### ○重点施策 5 について

安全性の確保や利便性の向上に向けて、県立文化施設の改修工事等を行ったほか人材育成の取組の成果を上げてきた。

また、文化芸術ポータルサイトを運営することで県内の文化芸術の魅力を発信し、多くの方が関

覧するなど、環境整備をさらに進めたと考える。

今後は、文化芸術の振興に向けた環境整備として、上述の取組に加え、文化芸術活動を行う団体などへの支援を強化することが望まれる。

## ○まとめ

コロナ禍にあっても、様々な工夫をしながら、文化芸術の灯を絶やすことなく、今日まで続けられていることについては、評価できると考える。

今後は、コロナ禍を経て改めて再認識された文化芸術の本質的価値が広く享受され、これまでに停滞した分の動きを取り戻すためにも、文化芸術活動の再始動を促進させる支援や、次世代の文化芸術を担う子どもや若者への取組、地域の活性化につながるような文化芸術の可能性を活かした取組などが求められる。

また、共生社会の実現に文化芸術の面からも寄与し、未病改善などの社会的課題にも貢献できるような視点で取り組んでいくことが必要。